

第7回横幹連合コンファレンス

「つながるヒト・モノ・コミュニティ——コトづくりの社会実装」

学習院大学 遠藤 薫

Gakushuin University Kaoru, ENDO

1 横幹連合コンファレンス

2016年11月18～20日、横浜市港北区の慶應義塾大学日吉キャンパスで、第7回横幹連合コンファレンスが開催された。

横幹連合（特定非営利活動法人「横断型基幹科学技術研究団体連合」）とは、およそ40の工学系学会から構成される学会連合で、既に10年以上の歴史を持つ。社会情報学会も、文理融合の理念から、設立当初より横幹連合に参加している。また、本稿の筆者である遠藤は、2013年から横幹連合副会長を務めており、強い連携を結んでいる。

横幹連合では、隔年で総合シンポジウムとコンファレンスを交互に開催してきたが、回を追う毎に規模が拡大することもある。2015年度の第6回横幹連合コンファレンス以降、毎年コンファレンスを開催することとなった。2016年度の第7回横幹連合コンファレンスでは、「年初に閣議決定された第5期科学技術基本計画では超スマート社会（Society5.0）が謳われており、システム科学を中心とした文理をまたいだ活動をしている横幹連合の貢献が期待されています。Society5.0の実現に向けわれわれの「横幹知」を社会に実装するために」（「挨拶」より）「つながるヒト・モノ・コミュニティ——コトづくりの社会実装」が統一テーマとされた。

このテーマに即して、大会実行委員会企画の基調講演および「パネル討論」とともに、幅広い分野にわたって現代の課題解決と実践を議論する、

26のオーガナイズドセッションによって構成された。

遠藤は、プログラム委員を務めるとともに、「地域コミュニティをいかに再生するか—Society5.0を展望しつつ」と題したオーガナイズドセッションをオーガナイズし、社会情報学会から河又貴洋（長崎県立大学シーボルト校国際社会学部）、北村順生（立命館大学）、平田知久（群馬大学）の各先生にもご登壇いただいた。

また、横幹前会長の出口光一郎先生（東北大学名誉教授）がオーガナイズした「災害から真に強靱な社会とは？—防災学術連携体に参画して」にも、社会情報学会から三浦伸也（防災科学研究所）、山本佳世子（電気通信大学）の各先生にご登壇いただくなど、社会情報学会も積極的にかかわった。

ここでは、基調講演、パネル討論、上記オーガナイズドセッションについて、簡単にご報告させていただきますこととする。

2 基調講演

■基調講演

第7回横幹コンファレンスの基調講演としては、社会情報学会会員である須藤修先生（東京大学）が、「人工知能と人間・社会—第4次産業革命を超えて」と題する講演を行い、大変好評をいただいた。

■パネル討論

基調講演を受けて、「Society 5.0（超スマート社会）をつくる～システム科学を中心とした文理をまたぐ横幹連合の寄与～」というテーマでパネル討論が行われた。船橋誠壽（横幹連合副会長、司会）、原山優子（総合科学技術・イノベーション会議議員）、高西淳夫（日本ロボット学会会長・早稲田大学）、椿広計（日本品質管理学会会長・統計センター）、前田章（計測自動制御学会会長/情報処理学会副会長・日立）の各氏とともに、社会情報学会副会長の田中秀幸先生（東京大学）が登壇し、建設的な議論がなされた。

3 オーガナイズドセッション

以下、社会情報学会会員の報告概要を紹介する。

■「災害から真に強靱な社会とは？—防災学術連携体に参画して」

□「防災科学技術の研究成果を地域防災の実践の場に届ける仕組みづくり」：三浦伸也，他（防災科学研究所）

防災科学技術に関する研究成果を実践の場に届けるには何が必要なのかを考察する。

□「計画科学の立場からの災害対策の評価」：山本佳世子（電気通信大学）

多様な学会の連携により設立された防災学術連携体の活動について紹介したうえで計画科学の視点から議論を行う。

■「地域コミュニティをいかに再生するか—Society5.0を展望しつつ」

□「Community 5.0を考える」：遠藤薫（学習院大学）

Society 5.0を、第4次産業革命とCommunity 5.0（将来の社会展望）のシナジーとして捉え、その条件を考察する。

□「地域の“情報場”〈知場・地場・磁場〉から考

える地域創生」：河又貴洋（長崎県立大学）

情報通信技術の「社会形成」について考察し、日本が直面する技術課題の問題点について「場所性」と「地域性」の観点を提示する。

□「映像アーカイブの活用による地域コミュニティの文化的再生」：北村順生（立命館大学）

地域の映像アーカイブを教育現場で活用する事例をもとに、地域コミュニティの文化的再生に向けた方策を明らかにする。

□「聖アウグスティヌスについて」：平田知久（群馬大学）

コンテンツツールズに関する既存研究を概括し、それがなぜコトづくりを実現していると考えられるのかを説明する。

4 今後に向けて

今後も、このような広がりをもった議論の場を拡げていきたい。なお、前述の「地域コミュニティをいかに再生するか」セッションは、横幹シリーズの一冊として企画進行中である。

2017年11月18～19日には、立命館大学矢上キャンパスで第8回横幹連合コンファレンスが開催される。みなさまのご参加をお待ちしています。



会場の慶應義塾大学（2016.11.18 遠藤撮影）